

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立神戸聴覚特別支援学校

活動の実際（単元名）

ゲームを通じてコミュニケーションをとろう

指導目標

- ① 積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を持つ
- ② 聞こえにくいとどんなときに困るかを（グループ内で）伝える努力をする
- ③ ②について寸劇を通して全体の場で表現するためにグループで話し合い、互いの意見を聞きながら工夫する

生徒の実態

手帳を持たない（比較的聞こえの良い）生徒がいる一方、重度重複の生徒（筆談でのコミュニケーションも困難な）生徒もいる

事前学習

グループリーダーになる生徒に対して交流及び共同学習の内容を説明し、自分たちが生活のどんな場面で困るのかを話し合った。また、各グループの内容が重ならないように調整した。

学習活動（具体的な取組）

- ゲーム（コミュニケーションのきっかけとなるように）
- ・同じ血液型同士で集まる
- ・名前（姓）の50音順に並んで円になる
- ・誕生日順に並んで円になる

グループ活動

班毎に集まり、実際の生活場面でどんなときに困るか、また苦労するかについて本校生徒が説明する。その話をもとに相談しながら寸劇をつくり、全体の場で発表する。

支援と留意点

- ・血液型が不明な生徒については、わからない生徒だけで集まるように指示。その他については生徒同士のコミュニケーションを尊重し教師は見守るように心がけた。
- ・誕生日が当日に近い生徒を紹介し、皆で祝福の拍手をした。
- ・ある程度音声でコミュニケーションが取れる生徒が各班に入るよう、メンバーを考慮した。各班のリーダーには予めテーマについて考えておくように指示しておいた。

評価

予想していた以上に本校生徒が積極的に活動し、全体のゲームでも班毎の話し合いや寸劇でもリードする場面が多く見られた。毎年の積み重ねの成果と思われる。相手校の生徒たちも笑顔で積極的にコミュニケーションを図ろうとしていたので、本校生たちも活動しやすかったと思われる。

活動の様子



同じ誕生日の仲間を、指で数字を表しながら集めようとしている。



誕生日順に並び、この日に誕生日が近い仲間を拍手で祝福

事後学習

コミュニケーション手段の違いや難しさなどをHR等で報告した。本校の生徒同士でも困る場面に違いがあることに気づき、思いを共有した。なお、寸劇としては「電車や駅における遅延等のアナウンス」「道をたずねられる等、街で知らない人から話しかけられた時」「病院での呼び出し」「災害の際の避難誘導」「車のクラクションや自転車のベル」などを取り上げた。

成果と課題

比較的コミュニケーションがスムーズな生徒が各グループに入るようにならしたので、筆談を使わずに活動したが、生徒からはやはりコミュニケーション用のボードがあった方がいいという意見も聞かれたので、グループ活動に適切なサイズの「N U B O A R D」（ノートタイプのホワイトボードのような製品）を購入した。（従来のものは大きすぎたり小さすぎたりして使い勝手が悪かったため）困る場面は表現できたが、どのような援助があれば良いかについては、それぞれの状況によって異なるため、深めることは難しかった。今後の課題である。